

## 北九州学術研究都市 指定管理者検討会 会議録

- 1 開催日時：第1回 令和4年5月24日（火）16:00～17:00  
第2回 令和4年8月19日（金）14:00～16:00
- 2 場 所：第1回 産学連携センター 小会議室1  
第2回 産学連携センター 中会議室2
- 3 出席者：（検討会構成員）石田構成員、相浦構成員、平田構成員、能美構成員  
（事務局）産業経済局 次世代産業推進課長、学研都市施設担当係長、係員
- 4 会議内容：

### 第1回

- 当日の配布資料・議事次第等について、事務局より説明。
- 検討会の位置づけ及び検討会の進め方等について、事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出。
- 条件付き公募方式採用の理由、施設の管理運営業務等について事務局より説明。
- 質疑応答。

- （構 成 員） 学研都市という特殊な施設を運営する上で、ソフト事業が重要と考えるが、（公財）北九州産業学術推進機構（以下「FAIS」という。）の職員のうち、専門性のあるコーディネーターは何名か。
- （事 務 局） 職員70名弱に対し30名前後在籍しており、各部門に様々な業種の専門家が配置されている。
- （構 成 員） 専門性を持ったFAISが業務を継続することはとても大事だと思われる。一方で、取り組み内容がマンネリ化するというリスクもある。異なる分野の視点が入ると、よりよい運営となると思うが如何か。
- （事 務 局） 学研都市の研究内容は理工系が中心でわかりにくいところがある。異業種交流や積極的な広報などにより新しい考えを取り入れていくことは重要である。
- （構 成 員） 市・FAIS間の連携体制はいかなるものか。
- （事 務 局） FAISが主催する会議への市の参加や、日々の協議などを通じて緊密に連携している。また、市職員がFAISに出向しており、意識、政策目標を随時共有しつつ、ハード・ソフトをつかいかいこなす仕組みを心掛けている。
- （構 成 員） 施設管理について、光熱費や物価が高騰していく中で、今後の予算はどのように考えているのか。
- （事 務 局） 物価の上昇を勘案し、必要な予算は増やすよう市内部で現在調整を行っている。適切な施設管理をしたうえで、事業も行えるような予算を整えたいと考えている。
- （構 成 員） 施設の管理自体は他の団体でも可能性はあるのかもしれないが、産学連携や研究開発支援などのソフト事業や、ハード事業の中でも研究・試験環境の維持など、学研都市の一体的な管理運営には人材と経験が必要である。したがって、FAIS以外は想定できないと思う。
- また、昨今のDXや少し前のカーエレクトロニクス等、社会変遷に併せて対応しているFAISが妥当と考える。
- （構 成 員） 財務状況について、概ね良好に見えるが、取得価格に比べて時価が目減りしている資産はないか。
- （事 務 局） 金融資産については、地方債や電力債などの公共債が中心であり、積み立てがメインの安定債である。固定資産は建物がメインであり、適正に減価償却をしている。

(構 成 員) 事業収入や事業費が前年度と比較して減少しているが、その理由は。  
(事 務 局) 新型コロナ感染拡大の影響で、ひびきの祭や展示会への出展等の中止、学研都市フォーラムのオンライン開催などの縮小が原因である。

(構 成 員) 過去に計上外費用の寄付金 1 億円とは何か。  
(事 務 局) 平成 30 年 4 月に市の外郭団体である公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センターと FAIS との合併により市出捐金が 1 億円増となり、その増加分を市へ返還したものである。

○構成員は質疑応答を受けて各自条件付き公募方式採用の妥当性の有無を発表。

(構 成 員) 産学連携、研究開発などのソフト事業や特殊な施設を管理するハード事業など、学研都市の発展へ向けた主体的な取組を実施するには、これまでの経験、人材を有する FAIS が最適であることから、妥当性「有」。

(構 成 員) これまでのノウハウがある FAIS の継続は外せないことから、妥当性は「有」と考える。一方でマンネリ化しないよう、いかに組織としてバランスをとれるかを留意しながら、今後も学研都市の機能が低下しないよう引き続き頑張っていただきたい。

(構 成 員) 地域とうまく連携しながら、成果を創出してきた団体である。専門性が高い人材が集まっている点や、スキルやノウハウが蓄積されている点から、代わりになる団体はないと考え、妥当性「有」。

(構 成 員) 北九州市内の大学や企業と長きにわたり関係性を持っていることに加え、北九州市の産業の今後を担う立場でもあることから、妥当性「有」と判断する。今後ますます社会情勢が変わっていくことが予想される中で、ソフト部分を軸に必要な環境整備をしっかりとやっていただきたい。

全構成員、条件付公募方式採用の妥当性は「有」という意見を受け、検討会を終了。

## 第 2 回

○当日の配布資料及び検討会の進め方等について事務局より説明。

○申請団体による提案内容のプレゼンテーション。

○質疑応答。

(構 成 員) 一般開放施設とはどのようなものか。また、数値目標についての稼働率はどのようにして決めているのか。

(申 請 団 体) 一般開放施設は、各施設の会議室や体育館、会議場等があり、学研都市内の大学や企業の利用を優先しているが、未利用時には一般にも開放している。  
目標は市が過去の実績から判断し設定した数値を上回るよう設定している。

(構 成 員) 例えば、同様の他施設の数値を参考するとか、過去の実績 1 割増といったように大きく設定してもよいと思う。レジャーで使用する体育施設とビジネスで使用する会議場などを分けるとより実態に合った目標となるのでは。  
過去に助成した企業について、その後の動向について検証しているか。

(申 請 団 体) 助成した企業からは、その後 10 年間毎年情報をいただいている。  
平成 2 年から現在までの 374 件のうち、製品化を達成したものは 86 件、売上総額は 697 億円と把握している。

(構 成 員) 収支計画の中で、経費を削減するところや逆に費用が大きくなるところもあると思う

が、いかがか。

(申請団体) 人件費については、単価が上がる一方で人員を削るわけにはいかないので、業務効率を考えるとできるだけうまく業務を回せるよう工夫したい。また、施設の老朽化が進んでおり、修繕費が増加しているが、市と連携しつつ、優先順位をつけて効率的な管理を行う。

このように経費が嵩む中で、不要な委託業務を削減することで委託料を削り、全体的なバランスをとっている。

(構成員) コワーキングスペースを新たに設置するとのことだが、インキュベーション強化についてより詳しく教えてほしい。

(申請団体) コワーキングスペースは多々あるが、学研都市の特徴は大学が複数あることなので大学発ベンチャーを支援できる仕掛けを今後作っていきたいと考えている。その他には、学研都市には全国でもあまり見られない、半導体の設計、試作、評価が一連でできる施設が整っている。この施設を学生に活用していただきたいと考えている。

(構成員) スタートアップを推進するプログラムはあるか。

(申請団体) スタートアップについては、市の担当部署と情報共有、連携しながら進めることとしている。

(構成員) アンケートの満足度が90%を超えているが、どのように実施しているか。

(申請団体) 新型コロナウイルス感染症により、令和3年度からネットでのアンケート調査を行っている。頂いた意見は常にFAIS内部で情報を共有し、迅速に対応している。

(構成員) 入居率向上について、具体的な数値目標はあるか。

(申請団体) とくに数値目標はないが、指定管理の仕様の中で入居に応じたインセンティブ・ペナルティ制度があり、指定管理者の努力により入居率向上となった場合、メリットを受けられるようになっている。

(構成員) 学研都市の機器類の更新及びメンテナンスはどのように行っているのか。

(申請団体) 機器は主に市が所有していることから、維持管理については市と相談しつつ行っている。機器の修繕に係る費用は指定管理料を使っている。

(構成員) コワーキングスペースは昨今乱立しているが、FAISが新たに設置するコワーキングスペースについて、利用者が発信したくなるような目玉はあるか。

(申請団体) また、誘致促進マネージャーは、これまでのコーディネーターと何が異なるのか。今回新たに設置するコワーキングスペースでは、中身のイベントで特徴を出したいと考えている。学研都市の特徴として、学生の約3分の1が留学生ということが挙げられる。留学生との交流を深め、留学生の起業を支援したい。誘致促進マネージャーについては、学研内の研究者と学研内外の企業とのマッチングや、入居企業への定期訪問等により、細やかで手厚いフォローを行うことで、学研外の関連企業への働きかけにつなげる等、誘致促進を行う予定。

(構成員) 新規利用者のターゲットはどうなっているか。また、そのうち未利用者となった理由は把握しているか。

(申請団体) 具体的なターゲットは、研究開発部門を有する企業や、優秀な学生の採用を目指す企業、入居企業との関連がある企業、学研都市の大学と共同研究を行っている企業、ロボット、DXといった分野で、本市に進出する可能性のある企業である。誘致につながらなかったケースとしては、幹部が変わったことにより社の方針が変わったことや、長引くコロナや経済状況の変化の影響を受け社の方針が変わったこと、近隣の他都市

により好条件の物件が見つかったことなどがある。なお、誘致が叶わなかったケースについても、誘致の担当者が市と情報を共有し、その後の誘致活動に活かすことが可能となっている。

- (構 成 員) 施設内で利用されていないスペースはあるか。  
(申 請 団 体) 各センターの旧喫煙室や旧 CAI 室がある。旧喫煙室は入居者が使用できる倉庫等活用を提案し、調整を進めているところである。  
旧 CAI 室については、長らく倉庫として使用していたが、図書室でイベントを行うための「まなびのへや」として設置した。今後はゲーム体験会や DVD 上映などに活用を検討している。  
今後、こうした利用されていないスペースについては利活用を積極的に行いたい。

#### ○意見交換（指定管理者としての適性）

- (構 成 員) 適正な理念、基本方針を有しており、また必要十分な人材、健全な財務実績を有している。十分な実績も有しており、研究開発助成後の検証やフォローアップも適正である。
- (構 成 員) 各施設の目的を理解し、適切な管理運営方針が策定されている。  
安定的な人材基盤は既に確保しており、財政においても問題ない。予算について、修繕費など心配な面もあるが、しっかりその点も考慮したものになっている。  
実績、経験は十分にあるが、逆にそれらの視点にとられすぎないように運用を進めていただきたい。
- (構 成 員) 時代の潮流に合わせて、機能、役割を柔軟に対応しており、学研都市の目指す方向性をよく理解されていると思う。また、十分な人的、財政基盤を有しており、実績についても申し分ない。ただし、事業が多岐にわたることから、事業の取捨選択し、忙殺されることのないよう配慮しつつ学研都市の運営を続けてほしい。
- (構 成 員) 立地を活かしたグローバルな視点や産学連携可能な学研都市の専門性、市の施策を全体最適の観点で運営する方針であり、指定管理業務に適合している。  
また、経験のある専門人材を有しており、安定的な財政及び人的基盤は確保できていると思われる。市や地域支援機関、大学と連携し、産学官連携によるセミナーや研究開発等を数多く実施してきたことから、DX、AI、IoT、ロボット、半導体等、最先端の取り組みを支援する総合かつワンストップ機関として、豊富な実績や経験がある。

#### ○意見交換（管理運営計画の適確性【有効性】）

- (構 成 員) 施設の設置目的の達成に向けた取り組みについては、産学連携誘致促進マネージャーの活動に期待する。数値目標についてももう少し細かい設定と根拠が望まれる。利用者の満足度について、これまでもニーズの把握、課題への的確な対応に努めてきており、今後も同様に期待できる。
- (構 成 員) コワーキングスペースの新たな設置について有効性は認められるが、他にも似たような施設があることから、ここならではの特徴を強く持っていただきたい。利用者が満足することで自ら SNS など発信したいと思えるようなものにしていただきたい。情報収集する側としては、実際に利用した人の意見がささる。こういった一歩先の視点があるといい。利用者が SNS で拡散することにつながるような強いメッセージが必要と考える。
- (構 成 員) 誘致促進マネージャーの活動によって新たに把握するニーズもあると思うので、迅速に対応していただきたい。コワーキングスペースについては、利用者のプラスとなるようなプログラムの実施に期待する。
- (構 成 員) 新しい取り組みとして、インキュベーション機能を拡張するためのコワーキングスペースの整備や、産学連携誘致促進マネージャーによる入居企業の誘致促進計画は、学研都市の機能を更に強化する取り組みとして期待できる。

利用者の満足度については、利用者のニーズを把握し、強みを生かした新たな提案を盛り込んでおり、利用者の満足度向上が期待できる。新たな研究室への入居者の誘致方法として、ターゲットとする業種の未入居企業がこういった理由で未入居であるのかを把握することで、更なる入居率、満足度の向上につなげていただきたい。

○意見交換（管理運営計画の適確性【効率性】）

- （構 成 員） 適正に精査されており、これまでの実績を鑑みても妥当な計画と考える。
- （構 成 員） 過去の実績と比較し大幅な変更がないことから収支計画は実現可能と考える。人件費、修繕費が増加する中で不要な委託費を削減することでバランスがとれている。
- （構 成 員） 提案内容については、これまでの実績を踏まえた内容であり、問題はない。収支計画については妥当であり、実現可能性は高い。施設のメンテナンスなどについては市と協議しつつ長期的に取り組んでいただきたい。
- （構 成 員） 21年間管理運営をしてきた実績と経験から課題を解決する提案となっている。

○意見交換（管理運営計画の適確性【適正性】）

- （構 成 員） 特に重要な情報セキュリティや安全対策について、十分に計画されている。
- （構 成 員） 人員配置、資格等は問題ないと考える。地域、関係団体との連携強化に向けて具体的、積極的に取り組んでいただきたい。
- （構 成 員） 大規模な施設運営において、安全対策、危機管理は重要であるが、これまでの経験をもとにしっかりとした体制が提案されている。
- （構 成 員） 長年の経験から最適の管理運営体制と思われる。

○総 評

- （構 成 員） 全項目について『適』と評価。これまでの十分な実績を有しており、計画内容も妥当で、指定管理業務が適正に実行できると思われる。
- （構 成 員） 全項目について『適』と評価。実績や経験は十分であり、また多岐にわたる施策を運営する母体として最適である。一方で、長期間運営により関係者や利用者が偏らないよう、新しい分野が参画できる仕組みづくりを期待する。
- （構 成 員） 全項目について『適』と評価。長年の実績もさることながら、常に新しいテーマを見出して活動していると感じた。スタッフの知見やネットワーク、フットワークを動員して、学術研究の拠点をさらに層の厚いものにすべく努力している。大学、学生の意見なども参考にして、より活力ある学研都市を創り上げていただきたい。
- （構 成 員） 全項目について『適』と評価。長年の知見・実績から、強みを強化し、更なる改善や新たな提案を盛り込んだ計画であり、代わりとなる団体はいないと考える。知の集積地として、全国・世界から注目されるよう、更なる魅力の向上を期待したい。